

就職支援を目的とした授業科目に関する実践研究

森屋 裕治・鷲野 友美・小山 幸治

A Practical Study on the Courses for Finding Employment

Yuji MORIYA, Tomomi WASHINO, Kohji KOYAMA

はじめに

20世紀から21世紀への時代の変化はめざましいものがあり、人々の生き方は大きな変化を余儀なくされている。高度成長期の進路選択、職業選択、職歴設計など大きく言えば「人生設計」は、従来のあり方が通用しなくなり、多様化し、増加し、新旧入れ替わりの激しい選択肢を前にとまどいを隠せず、キャリア形成に悩み問題を抱える多様な世代が登場している¹⁾。

短期大学においては、就職活動をする年代がちょうど20歳前後であり、女性の社会進出が進む時勢にあって、女子学生が進路を選択する際に考えなければならないさまざまな要素があり、大学や教員、家族の支援が求められることは当然のことである。しかし、旧来の“就職指導”的な手法では、自身の将来像を明確に定め積極的に就職活動に取り組む学生に対しては有効であるが、将来なりたい自分がわからない、何をしたいかわからない、働きたいと思わない、といった考えや悩みを持った学生に対しては、なすすべがなかったり、あるいは学生に対して能動的な行動を期待することができず、接点を見出せないままに時が過ぎる、といったこともある。

そこで、筆者らが所属する本学生生活情報専攻（以下本専攻）の2004年度入学者向けカリキュラムとして、主に進路支援を目的とした科目として、「キャリアデザイン」を1年後期に、「キャリアデザイン」を2年前期にそれぞれ設置し、本専攻としてよりいっそうの進路支援体制を強化した。本稿では、これらの科目の実施状況を報告するとともに、受講者を対象にしたアンケート等から課目実施に関して考察する。

キャリアデザインの意味

キャリア(career)は、仕事を中心とした経歴という意味で一般的には用いられる。しかしそれだけではなく、生涯にわたる上昇的な職業移動、それによる人間的な成長および自己実現をも意味する言葉である。

日本ではキャリアは個人が計画するものではなく、会社が終身雇用制を前提に人事異動という形で一人一人のキャリアをコントロールしてきたといえる。しかし、キャリア形成を会社任せにする時代は終わったともいえる。キャリアは自分でつくるものになり、現在は、自分の得たい知識や技能を自分で身につけていく時代となっている。自分の適性を知り、学びたいこと

を見つけ、キャリアデザインすることが、社会に出る前のこの時期に必要である。

ここで、「キャリアデザイン」という名称の学科としてスタートした大学、短期大学を数校紹介する。短期大学では、「キャリアデザイン」を「学生自身の将来に向けたキャリアデザインのための実践的教育」とし、一方大学では、「キャリアデザイン」を「他者へのキャリアデザインのための学問」としており、両者の位置づけは大きく異なっているようである。

短期大学では、短期大学基準協会より「地域総合科学科」としての適格認定を受けスタートした学科が多い。同基準協会が推奨する「地域総合科学科」とは、コース・専攻の境界を取り払い、学びたい専攻や取りたい資格を自由に選んで学べる新しいスタイルの総合学科であり、適格認定は、設置された学科の教育の「質」が保証されたことを意味するものである。

以下、数校について、大学Webページを参考に学科紹介の内容を紹介する。

(1)山陽学園短期大学キャリアデザイン学科²⁾

キャリアデザインとは、自分の個性や能力が発揮できるように、自分の生き方を考えていくこと。価値観を広げる新しいものの見方・考え方を身につける授業を多数取り入れ、学生自身の自分探しをサポートしている。興味に合わせて4つのコースのいずれかに所属するが、授業科目に垣根はなく、興味のある科目が自由に取れるので、コースを超えて幅広い教養が身につけられる。コースは4つあり、キャリアデザインコース、住居デザインコース、服飾デザインコース、健康デザインコースを設けている。

(2)新島学園短期大学キャリアデザイン学科³⁾

新島学園短期大学キャリアデザイン学科は、「理想の2年後」をつくる新しい発想の学科である。興味のある分野、進みたい方向に合わせて学生のキャリア形成をサポート。教員と一緒に学生の進路を考え、丁寧に指導する。キャリアデザイン学科では、必修科目を除いてすべてが選択科目。いわば、ピュッフエスタイルの学び方である。ピュッフエスタイルは、自分だけのオリジナルなキャリアデザインができるように採用された学び方であり。必要な科目、興味のある科目だけを選んでカリキュラムを作る。科目単位で履修できる選択科目には資格取得や就職、留学などの目的に合わせた実践的な科目がそろう。

(3)法政大学 キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科⁴⁾

「自分らしい生き方のために必要な知識・技術を修得し、実践体験。」生涯学習社会に向けて、人びとの個性的な生き方を支援できる人材を育成する。「自分らしさをサポートするための実践力をつける場。」「自分らしさを形成する過程を「キャリア形成」、それを意識的に行うことを「キャリアデザイン」、キャリアデザインをサポートする社会を「生涯学習社会」という。キャリア形成、キャリアデザインは、家族、学校、企業、病院など、人間生活のあらゆる場所と時期において行われ、そこではキャリアを支え促進する専門家が必要とされる。本学部は21世紀の生涯学習社会に向けて、個性的な生き方と新たな人材育成をサポートするため、日本で初めて開設された。「自分らしい生き方」のために必要な知識、技術を身につけ、実践すること、それが「キャリアデザイン」である。科目群として、「キャリアデザインに関する科目群」、「生涯学習社会に関する科目群」、「生活文化・国際社会に関する科目群」を設けている。

(4)大手前大学社会文化学部 キャリアデザイン学科⁵⁾

「自分の力で課題を解決し、キャリア(自身の人生)を設計できる力を。」

現在、日本の社会は価値観の多様化や、新たな枠組みの構築に向けての構造改革という大きな時代の流れのなかで、実力が重視される競争社会へと向かっている。このような社会の中で生きていくには、自分の力で状況に対応し、課題を解決し、個人の能力を発揮して成長し続け

ていく力が非常に重要になる。2005年に新設されたキャリアデザイン学科はこのような社会の要請にむけて、教養、知識、スキル、国際感覚などを学びながら、自らのキャリアをデザインする（社会生活、職業生活に適應する自己探求、自己開発）とともに他者に対してもアドバイス、カウンセリングができる知識や方法論を習得し、あらゆる分野でこれからの社会を生き抜く能力を身につけることを目指す。

本学、本専攻におけるキャリア支援

1. 本学におけるキャリア支援体制

本学における全学的な組織としては、就職委員会と、学生支援センター・キャリア支援オフィスがある。両者は密接な関係にあり、就職委員会における議事のもと、キャリア支援オフィスがガイダンス、セミナー、個人面談等を運営、実施している。就職委員会は、原則として学科、専攻から教員1名、ならびに、学生支援センター長とキャリア支援オフィス職員から構成され、就職指導・支援について企画、運営にあたっている。キャリア支援オフィスは、年5回ほどの各種キャリアガイダンスを開催し、就職に関する情報を提供するとともに、窓口に於いては、進路相談、個人面談、履歴書やエントリーシートの添削にいたるまで、就職活動を幅広くサポートしている。

2. 本専攻におけるキャリア支援体制

本専攻では、担当学年に関わらず原則として所属教員全員が進路支援を行っている。現実には、ほとんどの学生が一般企業への就職を志望しており、進路支援は就職支援に直結している。授業前後や、研究室などでの個人面談はもとより、キャリア支援から提供される推薦応募などの求人情報を、専攻が登録している学生の携帯メールアドレスに配信し、スピーディーな情報提供体制を確立している。また学生の進路希望（職種、業種、居住地域など）によって、求人情報を個別に配信するなど、きめ細やかな進路支援を目指している。

授業「キャリアデザイン」の概要、目標

キャリア支援を、いわゆる「授業の合間、休憩時間」だけで行うことには、教員間にも疑問と限界を感じていた。全学生に対して進路を考える機会を設けたり、さらに実践的に就職活動における心構えや意識を形成する必要性を検討していた。そこで、本専攻では、他大学における授業「キャリアデザイン」等の先行事例を参考にしつつ、2004年度入学者カリキュラムで、はじめて「キャリアデザイン」に関する授業を設置した。以下、1年後期「キャリアデザイン」（必修）、2年前期「キャリアデザイン」（選択）について、シラバスに記載された内容を基に示す。

1. 授業の目的

授業の目的は、それぞれ次のように設定した。

- ・キャリアデザイン（1年後期）⁶⁾

生活情報専攻では、『ハートライブ・プロジェクト』の一環として、『ライブ・ステージ1：自分を見つめるステージ』（1年前期）に続く『ライブ・ステージ2：自分を伸ばすステージ』（1年後期）に本科目を設定しています。本科目は、学長と専攻所属教員4人の5人の教員が

それぞれ3回ずつ担当し、それぞれの視点からとらえたテーマで皆さんの将来を共に考えます。この科目に続き、『ライブ・ステージ3：将来の自分を描くステージ』(2年前期)で履修する『キャリアデザイン』(選択科目)では、実際の就職活動を具体的にサポートします。

・キャリアデザイン (2年前期)⁷⁾

生活情報専攻では、『ハートライブ・プロジェクト』の一環として、『ライブ・ステージ2：自分を見つめるステージ』(1年後期)に続く『ライブ・ステージ3：自分を描くステージ』(2年前期)に本科目を設定しています。本科目は、専攻所属の5人の教員がそれぞれ3回ずつ担当し、それぞれの視点からとらえたテーマで皆さんの将来を共に考えます。

2. 授業の内容

「キャリアデザイン」と「キャリアデザイン」の各回における内容や目的、すなわち授業計画は、それぞれ図1、図2のように設定した。なお教員名は省略した。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 人生と名古屋について考える<ul style="list-style-type: none">『キャリアデザイン』ガイダンスといろいろな将来についてある人生について(講演)名古屋とからくり文化について2. 仕事について考える<ul style="list-style-type: none">仕事の進め方1 仕事とは何か仕事の進め方2 マネジメント・サイクル仕事の進め方3 タイム・マネジメント3. 業界と会社について考える<ul style="list-style-type: none">業界とは何か会社とは何か会社を知るための情報収集法4. 就職について考える<ul style="list-style-type: none">就職することの意義(労働、社会人、組織とルール)就職活動の概要(就職活動、求人情報、自己分析)就職活動の実際(あいさつ、身だしなみ、履歴書の書き方)5. 就職試験について考える<ul style="list-style-type: none">一般教養対策1 SPI - 国語一般教養対策2 SPI - 数学一般教養対策3 一般常識 |
|---|

図1 キャリアデザイン 授業計画

1. ITを仲立ちとした人と人とのコミュニケーション
生活情報専攻の『ハートライブ・プロジェクト』でめざすこと
eコミュニケーション能力
人とのコミュニケーションの基本としての話しことば
2. 就職活動についてのHow To
面接・面談の基本
プレゼンテーションの技術 1
プレゼンテーションの技術 2
3. 企業について考える
企業の選び方
面接の受け方（志望動機など）
企業・社会人マナー
4. 就職対策の実践
就職試験対策実践編(1) SPI（言語、非言語）試験
就職試験対策実践編(2) SHL（CAB, GAB）試験
就職試験対策実践編(3) 時事問題・一般常識試験
5. ITの現状と企業見学
テーマパークにおけるITの現状
企業見学に向けての事前研修
6. 『ハートライブ・プロジェクト』の一環としての企業見学

図2 キャリアデザイン 授業計画

授業内容の詳細

ここでは、「キャリアデザイン」（1年後期）および「キャリアデザイン」（2年前期）について、各回の授業内容の詳細を記録する。

1. キャリアデザイン（1年後期）

(1) 人生と名古屋について考える

本学は名古屋市内に位置しており、学生の多くは愛知県内から通学している。また遠方からの入学者が下宿する場合もほぼ名古屋市内に居住することになる。したがって、学生たちにとって名古屋はたいへん身近で密接なかかわりを持つ都市となる。そこで、地元名古屋を知り、名古屋で人生を送っている現在の自身について考える機会を提供することとし、名古屋を題材とした授業を展開した。

(2) 仕事について考える

就職をすれば、当然「仕事」をすることになる。学生は目の前の就職活動のことだけが気になってしまいがちであるが、就職後こそ自分の人生、キャリアにとって重要である。そこで、就職活動に役立てるため、企業で仕事を進めるための方法やコツ、テクニックを説明した。具体的には、会社とはそもそもどのようなところで、その中ではどのような仕事が行われているのか、など、会社の役割と会社の仕事を学習させた。また、実際に企業の現場を見学すること

で、仕事の実態を観察し就職してからの自分をイメージさせたり、動機付けに役立てるため、企業見学を行った。

(3)業界と会社について考える

学生が今後就職活動をするにあたり、企業の存在について理解を深めておく必要がある。ここでは「業界」や「会社」について、具体的な資料などを紹介しながら、説明した。また、会社を知るための情報収集や整理の技法について、演習を交えながら説明を行った。

(4)就職について考える

ここでは、「卒業したら就職する」のが当然のようにになっているが、その原点を見つめなおし、就職するとは、働くこととはどういうことなのか、を実際的な話を中心に伝える。また就職活動におけるマナー全般についても説明をした。さらにキャリア支援オフィスによるキャリアガイダンスやキャリア支援オフィススタッフによるマナー講座などを実施した。

(5)就職試験について考える

多くの就職試験において避けて通れない適性検査SPIは、「Synthetic(総合的な)Personality(個性・性格)Inventory(評価)」の略語で、その名の通り、個々人の総合的理解を目的に開発された適性検査のことである。現在、多くの企業が人材採用の基準に用い、この検査で受験者の職務遂行能力、職場適応性、自己適応性、の各能力を判定している⁸⁾⁹⁾。この授業では、SPIのうち、検査、検査を取り扱った。検査は、言語や文章などの国語的な理解力を試す「言語能力検査」といわれる。検査は数量的な処理能力を試す「非言語能力検査」といわれる。SPIクリアの秘訣はとにかく『慣れる』ことであり、この授業では、各自がSPI受験の準備を進めるためのきっかけを提供することを目的とした。

2. キャリアデザイン (2年前期)

(1)ITを仲立ちとした人と人とのコミュニケーション

ここでは本専攻が本格的に始動開始した「ハートライブ・プロジェクト」について、その趣旨や目的を冒頭に紹介した。また、人と人とのコミュニケーションの基本としての話しことばに触れ、近年就職活動における連絡手段としてすっかり定着している電子メールなどにおける言葉づかいなどについて具体例を挙げながら指導を行った。

(2)就職活動についてのHow To

就職活動において、面接試験は避けて通れない試験の一つである。面接試験では、いかに自分を表現し、考えを伝え、自分をアピールできるかにかかっており、そして誰をも頼ることのできない場面である。そこで、面接で自分をどのように表現(プレゼンテーション)していけばよいか、実践的な内容を含め説明した。また、最新のビジネス機器などの製品や技術に直接に接触することにより、ビジネス現場の状況を体験でき、社会に出るにあたっての心の準備をさせることを目的として、社団法人中部経営情報化協会主催による「中部発、わくわくどきどき ユビキタス 体感! 2005 開催50回記念ビジネスウェーブ21」を見学、レポート提出させた。

(3)企業について考える

2年生になり、いよいよ就職活動が本格化してくる。当然4~5月に企業から内々定を得るものも出てくるが、多くの学生はいくつかの企業へ試験を受験しつつ、就職活動を継続している。その中で、「自分のしたいこと」と企業との間にミスマッチが起こることもある。そこで、あらためて「企業」とはなにか、また面接を受けるときの心構えや、準備すべきこと、さらに社会人としてのマナーをあらためて説明した。

(4)就職対策の実践 (SPIおよび「SHL (CAB, GAB)」^{10) 11)}、「一般常識試験」^{12) 13)})

SPIに加え、SHL社のテストCAB、GABや、一般常識試験について説明した。近年では、SPI試験および就職一般常識試験とならび、企業ニーズに合致する人材を採用する目的で、SHL社の実施する「GAB試験」「CAB試験」を社員の選考試験として用いる企業が増えている。就職試験受験者から「SPIと思っていたら少し違った感じだった」「SPIとは違ったので対応できなかった」という声がよく聞かれたが、これらの大半はおそらくSHL社の試験である。そこで、キャリアデザイン に続き、試験対策としてSHLテストを合わせて取り扱うこととした。

(5)ITの現状と企業見学

2年生ではハートライブ・プロジェクトの一環として、1泊2日の研修旅行を2004年度より実施している。2回目となる2005年度もほぼ同様の企画内容で9月に実施を計画し、事前研修の意味も含めて、IT技術について触れた。関連して、全国大学実務教育協会が主催し開始されたIT活用能力テストを、本学を会場にして実施した。

テーマパークにおけるIT活用の現状

9月に企画していた企業見学に関連した内容で実施した。テーマパークで利用されているIT技術(位置情報表示システム、施設の利用予約システムなど)を紹介した。さらに、あるテーマパーク(USJ)の各種アトラクションを取り上げ、実際にはありえないことを現実のように見せてくれる特殊効果に利用されている技術(CG、SFX、ロボットなどのコンピュータ制御など)を紹介し、夢を演出する各種システムを提供している企業のこだわりについて触れた。

IT活用能力テスト

JAUCB(全国大学実務教育協会)は各種称号認定で実績を上げている協会であり、本学においても、情報処理士、上級情報処理士等の称号認定を受けるべく、カリキュラムを対応させている。このJAUCBが、これらの称号に関して理解度や教育効果を総合的に測定できるとともに、企業が求める情報技術を如何に実際の仕事や生活に活用できうるかの能力を測定する「IT活用能力テスト」を2005年5月～7月に試行テストとして実施することとなったため、本専攻2年生にも受験する機会を与えた。本試験の目的は、次のとおりである。

- ・情報処理士、上級情報処理士の教育課程の理解度、教育効果を測定する。
- ・情報技術を仕事や生活に活用できる能力を総合的に測定する。
- ・上記の能力をスコアや順位で評価することにより、就職活動等における学生の自己アピールの一助とする。

試験方法は、インターネット経由で学内の演習室で一斉実施した。テスト結果は合否ではなく、スコアで評価される。そのスコアは、後日スコア、全国個人順位、平均点、偏差値で、大学ごとにまとめて返送される。

(6)『ハートライブ・プロジェクト』の一環としての企業見学(研修旅行)

1泊2日の研修旅行は、宿泊費などの費用が生ずるため全員参加としていないが、本年度も53名が参加し、1日目には松下電器の関西ショールームである「パナソニックセンター大阪」と「ナショナルセンター大阪」を見学、2日目には関西を代表するテーマパーク「ユニバーサルスタジオジャパン」に入場し、さまざまなアトラクションを実体験しつつ、各所で使われているIT技術を垣間見ることができた。

授業評価(受講者アンケート)

本学では、ほぼすべての開講科目について、学生による授業評価アンケートを行っており、その結果は学生をはじめ一般に公開されている。ところが、今回の「キャリアデザイン」のような複数教員が担当するオムニバス形式の授業では、この授業評価アンケートは実施されない。そこで今回は、授業評価で使用しているアンケート用紙(2004年度用)をそのまま用いて、授業開講後に受講者にアンケート調査を実施した。

アンケート項目は次のようになっており、無記名とした。

- A. 各項目の評価点を で囲んでください。(5 そう思う～1 そうは思わない の5段階)
1. 教員はこの授業の達成目標を明確に示しましたか
 2. 教員は学生がその目標を達成するために努めましたか。
 3. あなたはその目標達成のために努力しましたか。
 4. あなたはその目標を達成でき、十分な力がついたと思いますか。
 5. この授業はあなたの今後の学生生活や社会生活に役立つと思いますか。
 6. この授業あるいはその関連分野が好きになりましたか。
 7. この授業を5段階で総合評価してください。(最高5～最低1)
- B. この授業を受けて、よかったこと、感動したことなどを書いてください。
- C. 今後の授業改善に役立つと思われる提案等があれば、自由に書いてください。

図3 キャリアデザイン、受講者アンケート 質問項目

1. キャリアデザイン (1年後期)

全受講者中88名から回答を得たので、その集計結果を示す。

(1) 評価項目Aの各結果

表1に各評価点の人数と平均点を示す。

これによれば、項目1、2の教員に対する評価は平均4.0を上回り良好である。また項目5の「今後役立つか」も就職活動に直結する内容でもあり高い平均点となった。一方、項目6の

表1 キャリアデザイン 授業評価アンケート結果(1～5は人数)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 平均点 |
|------------------|---|----|----|----|----|------|
| 1. 教員は目標を明確に示したか | 0 | 1 | 15 | 47 | 25 | 4.09 |
| 2. 教員は目標達成に努めたか | 0 | 1 | 17 | 44 | 26 | 4.08 |
| 3. あなたは努力したか | 0 | 11 | 38 | 30 | 8 | 3.40 |
| 4. あなたは目標を達成できたか | 1 | 14 | 40 | 25 | 7 | 3.26 |
| 5. 今後役立つか | 0 | 2 | 20 | 44 | 21 | 3.97 |
| 6. 関連分野が好きになったか | 2 | 10 | 54 | 15 | 6 | 3.15 |
| 7. 総合評価 | 0 | 1 | 38 | 36 | 13 | 3.69 |

「関連分野が好きになったか」においては、就職対策といった実践的な内容であるためか、役立つこととは考えてもそれを「好きになった」というわけではないようで中間点3.0をわずかに上回る程度となった。項目7の「総合評価」は3.69という結果となった。

これらの結果から、この授業に対する受講者の高い注目や関心が伺える。特に「今後役立つか」の設問では、平均点がほぼ4.0点となり、高い評価となった。これは、受講者自身に将来を考える意識が高まり、実際に行動（就職活動）することを見据えての回答といえよう。また「教員」に対する評価も高い結果となった。これも、教員が受講者の進路選択に注力している姿勢が伝わったものと考えられる。一方、受講者の「努力」「目標達成」については、この授業を受講してよいよ就職活動本番、という段階での授業のため、受講者自身に具体的な到達点がイメージできなかったためと考えられる。

(2) 評価項目 B , C の各結果

評価項目 B , C は自由記述となっており、多くの学生が意見や感想を寄せてくれた。ただ、Bの「よかったこと、感動したこと」とCの「授業改善に役立つ提案」とは、いくらか混同されているところがあったため、ここでは両方の回答をあわせて、「授業全体について」「エントリーシート、適性検査、面接について」「SPI、試験問題について」「先輩の話など」「先生について」の5つに分類して、記入内容をそのまま記載する。ただし「授業全体について」「エントリーシート、適性検査、面接について」「SPI、試験問題について」の3項目は多数の意見があったため、内容の重複する意見は省略した。

授業全体について

就職のことが少しわかった気がした。
就職について真剣に考えるようになった。
就活の役に立つので良かったと思う。良いプレッシャーになると思う。
就活について、この授業で教えてもらえてよかった。
キャリアガイダンスを受けて、初めて知った事がたくさんあった。
これから就職試験を受ける上で勉強になったと思う。もっと真剣に取り組めばよかった。
就活がどのようなものか実感できた。
家ではなかなか勉強する気になれないが、授業だとやらなきゃいけないのでよい。
就職に対する実感が湧いた。
筆記試験の勉強は、自分ではなかなかやらないので、授業でできてよかった。
就職試験の勉強ができてよかった。
いろいろな話が聞けてよかった。
就活のことが聞けたので今後役に立つと思う。
就活をしなくては！という気持ちになった。
就職についてなど、これから役立つことを学んでよかった。
他の科にはないみたいだが、就職のことがわかってよかった。
1年生のうちから就職のことを考えられてよかった。
実際、1年の頃はまだ就職に対して強い関心や、焦りがなかったので、この授業にあまり興味を持てなかった。
就活のためになる話がたくさん聞けてよかった。
就職がどういうことなのかと、自分がどんな人間なのかを把握する大切さを学習できた。
役立つ内容であると思った。
就活の中でどんなことをやっているのかがわかったからすごく自分のためになると思った。
キャリア支援の方が来て授業した内容が、自分にあまり必要ではなく重要なことではない
とっていたので、今になって、もっとちゃんと授業を受ければよかったと思った。
就職活動をするぞ!!という気持ちになれた。
実践的な活動を授業に入れるとよかった。

図4 受講者アンケート自由記述 授業全体について

エントリーシート、適性検査、面接について

自分の知らなかったことを学べてよかった。適性検査が面白かった。
適性検査や面接対策もやってほしかったです。
自分の性格を知るアンケートができてよかった。
自己分析をする時間があってよかった。
自己分析の進め方、面接の仕方については良かった。
面接のポイントが聞いたことがよかった。
実際にあった面接例などをたくさん挙げて教えてほしい。
もっと面接のポイントが知りたかった。
企業に好まれる人間像を面接に例えて教えてほしい。(どう面接を受ければ好まれるのか)
面接の時や履歴書を書く時はどうするかなどを具体的に教えてほしい。
エントリーシートの書き方もやってほしい。

図5 受講者アンケート自由記述 エントリーシート、適性検査、面接について

SPI、試験問題について

SPIの問題の解き方を聞いたのがよかった。
SPIはよかったし、すごく勉強になった。
SPIなども使い、問題のスムーズな解き方を学び、就活に役立った。
SPIの勉強は今後の役に立つと思った。
SPI対策はとてもよかった。
もっとSPIや一般常識の問題もやってほしかった。
一般常識とかの筆記の対策をもっとしてほしかった。
就活の問題がやれてよかった。
ワークの問題とかが難しかった。
問題を解いていくのは、初めてやるのも多く、いいと思った。
ことわざや数学などを勉強できてよかった。

図6 受講者アンケート自由記述 SPI、試験問題について

先輩の話など

先輩たちの話も聞いて役立った。
先輩の話はとても勉強になった。
先輩の体験談を聞く機会があってすごくよかった。
先輩の就活の話などが聞いてよかった。
もう少し先輩たちの就職活動状況を知りたかったです。

図7 受講者アンケート自由記述 先輩の話など

先生について

先生方がとても親切で、また手助けをしてくれてよかった。
 県民性の話はおもしろかった。
 企業側から見た意見（どのような学生を求めているのかなど）を教えてほしい。
 一人の先生に2～3回しかなかったのもっと多くしてほしい。
 いろんな先生から授業が受けられてよかった。

図8 受講者アンケート自由記述 先生について

2. キャリアデザイン（2年前期）

全受講者中54名から回答を得たので、その集計結果を示す。

(1) 評価項目Aの各結果

表2に各評価点の人数と平均点を示す。

これによれば、キャリアデザインと同様、項目1、2の教員に対する評価は平均4.0を下回ってはいるものの良好である。また項目5の「今後に役立つか」も現実には多くの学生が行っていた就職活動に直結する内容でもあるため高い平均点となった。一方、項目6の「関連分野が好きになったか」においては、こちらも実践的な内容であったがゆえにそれを「好きになった」とは評価されず中間点3.0をわずかに上回る程度となった。項目7の「総合評価」は3.42という結果となった。

表2 キャリアデザイン 授業評価アンケート結果（1～5は人数）

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 平均点 |
|------------------|---|---|----|----|----|------|
| 1. 教員は目標を明確に示したか | 1 | 1 | 18 | 21 | 13 | 3.81 |
| 2. 教員は目標達成に努めたか | 1 | 2 | 17 | 23 | 11 | 3.76 |
| 3. あなたは努力したか | 2 | 7 | 20 | 19 | 6 | 3.37 |
| 4. あなたは目標を達成できたか | 1 | 9 | 27 | 12 | 5 | 3.20 |
| 5. 今後に役立つか | 1 | 2 | 21 | 21 | 9 | 3.65 |
| 6. 関連分野が好きになったか | 1 | 7 | 35 | 8 | 3 | 3.09 |
| 7. 総合評価 | 1 | 0 | 33 | 14 | 5 | 3.42 |

これらの結果から、この授業に対しても受講者の高い注目や関心が伺える。ただ、キャリアデザインと比較すると、それぞれいくらか評価は下がっている。それぞれの項目に関して評価が「3」の回答が増え、肯定的な評価がやや低下している。多くの学生が就職活動を進めている時期であり、個々の受講者の活動状況によって、この授業に対する意識や意欲に、いくらかの差異があったものと思われる。

(2) 評価項目B, Cの各結果

こちらもキャリアデザインと同様、評価項目B, Cの自由記述は混同されているところが

あり、両方の回答をあわせて記入内容をそのまま記載する。ただし、キャリアデザイン と比べると、この自由記述の件数は大きく減少している。内々定を得て就職活動を終了した学生も多くなっており、いくらか関心が薄れてしまったかもしれない。

就活の役に立った。
よかった。
役に立つことだったと思います。
就活のことを先生方みんな真剣に考えてくれて嬉しかった。ありがとうございました！！
就職活動に役立ちました。
わかりやすかったです。
キャリア支援の方がとてもわかりやすく就活について話してくれたのでよかったです。
就職試験の勉強ができた
人が多すぎたかも・・・
プリントが多い。筆記対策、面接対策を早くして欲しかった。

図9 受講者アンケート自由記述

要 約

就職支援を目的とした科目を2004年度入学生カリキュラムから設置し、本学、本専攻が従来から行っていた就職支援体制の一層の強化を図った。本専攻の所属教員がオムニバス形式で担当し、進路選択や就職支援のためにさまざまな角度から講義や演習を行った。受講生からの感想からは、「就職することの意味や、就職活動の重要性がわかった」「企業や仕事について、考えるきっかけとなった」といった進路選択のための情報提供や指導、動機付けが行えたことが、これらの感想から読み取ることができた。ただし、実際の就職決定状況に関しては、このカリキュラムで授業を受講した学生は現時点で在籍中であり年度途中であるため、明確な評価や考察は難しいと思われる。ただし本稿提出の10月上旬で就職希望学生の約6割が企業から内定を得ている状況を考えれば、かたちや数値には表れなくとも、何らかの成果を上げられたと思われる。2005年度からは生活学科共通科目として、新たな形式で開講される。今後も就職支援とあわせて、本科目についても更に検討、考察を重ね、より現代的ニーズに即した内容を提案していきたい。

参考文献

- [1] 日本キャリアデザイン学会 : <http://www.cdi-j.jp/>
- [2] 山陽学園短期大学キャリアデザイン学科 : http://www.sguc.ac.jp/gakka/gakka_d.html
- [3] 新島学園短期大学キャリアデザイン学科 : http://ns.niitan.jp/b001_career.html
- [4] 法政大学キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 : <http://www.hosei.ac.jp/career/>
- [5] 大手前大学社会文化学部キャリアデザイン学科 : <http://www.otemae.ac.jp/gakubu/careerd/>
- [6] キャリアデザイン 、名古屋女子大学短期大学部2004授業計画～平成16年度シラバス、p.160 (2004)
- [7] キャリアデザイン 、名古屋女子大学短期大学部2005授業計画～平成17年度シラバス、p.179 (2005)
- [8] 就職適性検査クリア問題集 SPI CAB GABなどの適性検査がわかる！2005年版、成美堂出版 (2003)

- [9] 就職問題研究会：SPI適性検査問題と解説2005年度版、西東社(2003)
- [10] 阪東恭一：完全攻略!!最強のGAB・CAB対策問題集2005年度版、新星出版社(2003)
- [11] ヒューマン・リソース・ラボラトリー：「GAB」「CAB」驚異のテクニック'05年度版、高橋書店(2003)
- [12] 日経ナビ&就職ガイド編集部：一般常識の完璧対策 レベル別問題で知識力アップ!2006、日経人材情報(2004)
- [13] 日経ナビ&就職ガイド編集部：SPI・SPI2の完璧対策 ウラ技満載で実践に役立つ!2006年度版、日経人材情報(2004)